

アトモスフィア

科学的に評価され、社会の要請にも応えられる研究を

赤 松 穰*

大層な題を付けたが、では私自身がそのようなことが出来たかという、決してそうではない。むしろ出来なかったからこそ書くのであり、これは私がサイエンスを行うに当たっての願望であった。

私自身の研究経歴を振り返ってみると、時代と共に変遷したように感じるが、前半は主として基礎研究を、途中、基礎研究に加えて目的指向型で省庁からの要請に応えられる研究を行ったが、最後は非常に明らかな目的、つまり、社会の要請に応えられるような方向の研究、言い方を変えれば、応用面のある利用価値の高い研究を行ってきたと言える。

生化学者のみならず、殆どすべての科学者にとっての共通な意識としては、サイエンスの進歩に絶対的に貢献する基礎研究の重要性と、その成果の科学的価値が高ければ高いほど応用面が広く、利用価値も高いという認識であろう。われわれ生化学者は自分のサイエンスを行うに当たって種々の理由をつけて研究を行い、研究のやり方に関してはそれぞれに当然個性があるが、ここではどれが良いと言うつもりはない。

しかし、国公立大学の法人化に伴い、これは米国の影響なのかあるいは世界的な風潮なのか知らないが、殆どの大学の研究が突然ベンチャー化し、大変に驚くと同時に、このような状況では日本のサイエンス、特に基礎科学の将来はどうなるのかと心配になる。特に生化学会の会員の多くは、生命の維持、身体の正常、異常の解析など、最終的には人類の健康の維持、疾病の発症機構等に直接、間接に関与する大変に立派な基礎研究を行っている会員が多いと思うので、余計に危機感を感じる。学問の源とも言える大学での基礎研究の重要性は、特に日本のサイエンスの進歩をリードする場所であるが故に、基礎研究は基礎研究として世界をリードする方向でぜひ頑張ってもらいたい。しかし、要はバランスの問題であり、基礎研究の成果の現代社会における価値が高ければ高い程、その研究成果は社会の要請に応えられる応用研究へと必然的に繋がる筈である。

事実、基礎研究を行う際に、初期の目的を間違えさえしなければ、達成された時には、確かに社会の要請に応えられる可能性はより高くなるのは当然である。

世界の科学の流れが応用研究重視の方向に流れているやに見える現代の状況下においては、言葉を代えればそれが科学者に対する現代社会の期待であり要請であるならば、自分たちの基礎研究に立脚しても、しなくても、現代はこの方向でも研究を行うべきであろうし、そうした決心をした研究者は、むしろ、中途半端ではなく、徹底的にやるべきであろう。科学者個人としては所詮ベンチャーであるから、社会の要請に応えられる研究が出来るか否かは、目的を定めて如何に創造的で特徴的な研究ができるかに、全てはかかっている。またその結果如何によっては、産業界の活性化にも繋がり得るものであり、現代のサイエンスの一つの方向としては大変に価値のあるものであることも事実である。

“科学（研究）は何のためにあるのか。それは人類が健康で充実した幸せな人生を送るのに、広義で資するものでなくてはならない。”その意味からは、医学、薬学、農学など比較的应用面の広い分野の研究の大きな基盤となっている生化学、分子生物学研究に従事しているわれわれ生化学者は、まさにやり甲斐のある仕事を行っていることになり、それであるが故に、現代社会に対する責任も極めて重いと言わざるを得ない。

われわれ現代の生化学者に最も強く求められている研究成果は、単に科学的に素晴らしい価値を持つのみではなく、さらにその成果に立脚して引き続き行われる応用研究の結果が伴うことが必須である。それがあってこそ、初めて研究成果が真に現代社会の要請に応えられるものとして完成したことになるのである。さらにそれを効率よく行うことも、現代の科学者に課せられた義務であり、責任であると思う。

*財団法人微生物化学研究会 常務理事，研究センター長，国立感染症研究所 名誉所員，アメリカ生化学分子生物学会 名誉会員